



電子部技術課 土屋 様

講話内容

- ・ 地域企業における DX の取組
- ・ 講師のキャリア、会社紹介、会社の文化財、事業内容、今後の取組みなど

学生のワークシートから抜粋

【わかったこと等】

- ・ 設立 1900 年（明治 33 年）からある会社。元は製糸工場だった。
- ・ 電子部、合成部、AB 部、精密加工部に大きく分かれている。
- ・ デジタル社会を支える製品を設計製作している。
- ・ 少量多品種で産業機器に使用する制御ユニットとハーネスを製造している。
- ・ ハーネスとは機器間の接続に用いられるもの、端子。
- ・ 設計では 3D CAD で FPD 製造装置ユニットの設計、2D CAD で制御ユニットの回路、ハーネスの設計をしている。
- ・ デジタル製品の需要増加→ハーネスの受注増加→検査工程で製品が滞留して納期遅延が発生→DX による検査工程の改善。
- ・ 少量多品種では、完全な自動化は難しい。
- ・ DX の推進（基幹システムとの連携を社内人材が完結）により、検査工程の約 30% 削減に成功した。
- ・ 完全自動化はできないが、できるだけ自動化することにより約 4 倍の作業をすることができる。
- ・ DX のことだけではなく、事業内容のこと、今デジタル製品の需要が増加していることなど多くのことを知ることができました。

【考えたこと、感想等】

- ・ 昔からある会社が今も続いてすごいと思いました。それも身近にある会社だと初めて知りました。

- ・管理ソフトを使える人が増えることによってさらに効率化することができると思うので、今回の講話を通して自分もプログラムなどできるように勉強したいと思った。
- ・DXは大変だけど、改善点がどんどん見えてくるからメリットがあって良いなと思った。
- ・デジタル社会の裏で、こういった精密な部品などを丁寧に作っている会社があり、今の社会が成り立っていると思った。
- ・情報の真偽を見抜く力と自分自身で考える力を上げていきたいと思いました。他にもコミュニケーション能力を上げていきたいと思いました。
- ・進路の参考にしていきたい。
- ・電子部が面白そうだったので、他の合成部や精密加工部などについても知りたいと思いました。
- ・DX化によって業務の効率化が進んでおり、デジタルの制御について勉強しておけば役に立つかもしれないと思った。
- ・DXについて、もっと深掘したお話を聞き、より理解したいと思った。
- ・少人数で運営している企業こそDX導入による効率化や半自動化の効果が大きいなと思った。これを進めるにあたっては、ITリテラシーを身につけるのが大事なので、よく学ばないといけないと思った。
- ・DXについてよく知っていると、会社などでDXの仕事ができるので、勉強しておくとういと思った。
- ・一時的な負担ではなく長期的に考えてどうか、を考え、それを実行に移していこうと思った。